

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地	静岡県浜松市西区雄踏町山崎2829番地		
自己評価作成日	平成29年5月21日	評価結果市町村受理日	平成29年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?act=on_kouny_ou_detail_2016_022_kani=true&ligvosvoCd=2278200106-
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年6月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に基づき、家庭的な雰囲気やゆったりと楽しく自由でありのままに、その人らしい生活が出来る様日々支援に努めています。自然に囲まれた環境の下、季節により施設外に散歩に出かけ咲く花々に心を和ませています。月1回のお楽しみ外出では季節を感じられる計画を立て利用者様の希望を取り入れて、外食や地域のイベントに参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜松市西北の自然豊かな地域に在る事業所です。彩色が高いピンクと水色が目に鮮やかな揃いのポロシャツ着用の職員は皆朗らかで、気持ちの良い挨拶をしてくれます。昨年末起きた利用者2名と職員1名が怪我を負った件では、隣接の「生活支援ハウス」に全員で移る難儀となりましたが、家族とともに利用者と職員が気持ちを一つにして乗り切り、現在は以前の穏やかな暮らしを取り戻しています。家族の温かな応援もさることながら、利用者が職員に協力くださる姿に励まされ、職員のチームワークが格段に向上したことは不幸中の幸いであり、また暮らしの場を替えるにあたっては災害時のシミュレーション訓練にもつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念を掲示して、全ての職員が共有して実践につなげています。	理念の中でも特に「家庭的な雰囲気」ということを大切にしています。生活の中で「その人ができることを」を旨として、野菜の刻みや洗濯干し、たたみ、ゴミ袋折にやりがいをもって取組む利用者が増えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事の参加、山崎地区自治体開催の集いへの参加、買い物や食事は地元のお店を利用しています。	浜名湖クリーン作戦や防災訓練といった作業的なメニューは職員が出向き、区民祭やふれあい祭りなど親交が主となる場には利用者と職員で連れだって参加しています。またマジックや大道芸等の慰問も盛んです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地元民生委員や地域の代表者と意見交換し、地域の方々の意見を聞きながら認知症の理解を深めていただくよう情報を伝えたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の近況報告や行事報告を毎回行っています。山崎自治会長の参加により地区行事の情報を得て、地域の方々との交流に努めています。	運営推進会議では「認知症について」とテーマを決め、また地域から3名もの出席を得ており、地元ならではの情報交換が活発です。本年はメンバーが大きく変わりましたが、つつがなく隔月開催できています。	地域行事や所内イベントが豊富なことから、スライドショーなどの「魅せる」時間を設けるとなおります。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には区役所職員が毎回参加しています。会議後は会議録を作成し提出しています。	2ヶ月に1度事業所からも窓口に出向いていますが、運営推進会議には介護保険課と地域包括支援センター職員が毎回足を運んでくださり、助言を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを常に全職員が意識を持って日々実践しています。	現在身体拘束が必要な症状の利用者はいません。また大きな窓のある1階での開放的な暮らしが日々あり、さらに中庭に続く扉には施錠はなく、公園さながらの広い敷地で散策を愉しんでいて、自由に過ごしている様子に安堵を覚えます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のグループホーム会議を実施し、虐待になっていないかケース検討を行い、全職員で学ぶ機会をつくっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は1名のご利用者様がこの制度を利用していますので、この制度を必要とされる方には活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にグループホーム内の施設見学をしていただいています。日常の様子等を伝え、契約に至るまで十分な説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、個々の意見や要望を伺う機会を設けています。面会時にも交流を図りながら意見等を伺っています。幅広いご意見がいただけるよう、玄関には意見箱を設置しています。	丁度明日家族会があります。昨年末起きた利用者2名と職員1名が怪我を負った件では、「他人事ではない」として家族の親身な協力と心配りを受け、職員一同心から感謝しており、家族との絆も深まっています。	「グループホームだより」で発信は充分ですが、家族会にはバイキングなど双方向の会話が弾む食事会が加わるとなお良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を実施し、意見交換を行っています。個別に意見がある時は、その都度意見や提案を聞く機会をつくっています。	日頃からざっくばらんな発言があり、職員間の連携も良好です。昼食後の入浴タイムを午前に移動したことで昼休みをしっかりとれ、午後の時間がゆったりと流れるようになった効用は職員意見から実現したものです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間・やりがいなど、必要な条件整備のため法人理事会に提案して職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、施設内勉強会を開催し職員のスキルアップを図っています。また、外部研修会も出来る限り全職員が参加できるよう配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、研修会等を通して交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望を聞き、生活パターンを取り入れた支援をして信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の要望を聞き、その要望に耳を傾けながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の意向を十分に理解して支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき職員はご利用者様と共に生活し、支え合い寄り添って日々の暮らしに絆を深め良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて近況を報告、情報を共有して支援しています。受診時は家族に付き添いをお願いして本人との交流を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問を通じて馴染みの人との交流を大切にしています。入居前のかかりつけ医院もできるだけ通院していただくようにしています。	併設事業所での喫茶の会やまぎカフェ、アニマルセラピーが月1回、習字が月2回と繰り返し顔を合せる場が豊富です。納涼祭や誕生日会には家族を誘うことで面会の少なさを補ってもらえるケースもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事をみんなでいき、互いに協力しながら仲良く生活できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養に移った方の所に面会に行ったり、ご家族へも声掛けを行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ちょっとした会話に思いや暮らし方の希望、意向が隠れているので、それらの把握に努めています。	職員が読み終わった雑誌を持ち込んだりと諸所気遣っているなか、夜半「散髪したい」との訴えを翌日訪問美容師との連携で解消した例では、速やかな対応とともに「少しの変化も拾えるよう」と話し合われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の生活歴とさまざまな情報を重視し、本人の生活リズムに合わせて支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に一人ひとりの事柄を記録し、職員用の連絡ノートで全員が情報共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回職員会議を実施し、その中でケース検討や担当者会議を行い、介護計画の資料作りの話し合いを行っています。	ケアマネージャーが現場に入り計画作成担当者も兼務していて、1名でおこなう向きがありました。今後はモニタリングを各居室担当とし、また介護サービス担当者会議も家族、居室担当を交えて実施する予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して特養の相談員や機能訓練指導員に租団・協力を得て、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームやまぎきで共用型認知症対応型通所介護事業を行い、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら納得いく医療が受けられるよう支援しています。	全ての利用者が月2回訪問診療のある事業所の協力医に変更しています。また精神科に通う利用者には家族が送迎しており、原則受診支援は家族がおこなうことになっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師と相談し、状況に応じてかかりつけ医に連絡をとり、指示をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き状態の把握に努め、家族との情報交換を密にしサポートを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族に意向を伺っています。しかし、状況によって本人や家族の意向も変化する場合もあり、意向を尊重した支援を行うようにしています。	看取りはおこなわないことを家族に説明し、契約時点で合意形成があります。最も長く居る人は開設以来14年に渡り健康に暮らしていますが、医療や全介助の必要性が高まれば併設事業所への転居も可能なことから家族には安心してもらえています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議や勉強会等で初期対応の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回は防災訓練等の災害対策を実施しています。また、地域で行われる防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いています。	通報や屋外避難など小さな訓練を毎月細目を実施し、年2回の法定訓練は消防署職員の立ち合いでおこない、AEDと救命救急の対応指導にも別日で来所してもらっています。停電には自家発電が作動します。	本部署で管理している備蓄は事業所でも意識できるよう、一覧表のコピーをもらっておくとお良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、接遇マナー向上プロジェクトメンバー言葉使いや対応方法について指導を受けています。	外部のマナー研修で学んだ職員の法人内伝達講習会が今月おこなわれることになっていて、年1度程度礼節や接遇を振り返る機会があります。トイレは個室に設置され、入浴は要望に応じて同性介助としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに応じた無理のない支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪は特養にきている訪問理髪を利用して、洋服等の買物は希望があれば、ご家族と一緒に買い物に行けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせて役割分担してもらい、楽しく食事づくりや片付けに参加できるようにしています。	業者から食材と調理方法のメモが届いていますが、利用者が野菜を刻み、職員が献立へと仕上げ、毎食手作りの食事が提供されています。畑の収穫物を使うこともあり、何を植えるかの話題もでて賑やかな食卓です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を栄養管理士が作成し、介護職員が食事摂取量や水分量を記録して、一人ひとりの健康管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをして、口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導が必要な方にはトイレでの排泄を行っています。	各居室にあるトイレには案内が必要な人が3名いますが、他はすべて自身でできています。そのため、壁にカレンダーとペンを下げて自分で排便状況を記録してくださる利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や散歩等の運動を実施し、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日で入浴を実施し、清潔保持に努めています。また、入浴日以外でも希望があったり、皮膚の汚染が認められる場合にはその都度入浴を実施しています。	隔日を目安としていますが、「毎日入りたい」という希望も叶っています。中庭に人がいないことを確認して窓を開け放ち「露天風呂だよ～」と呼びかけるなど、笑顔のある入浴を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに応じて、安心して休息したり良眠できるよう対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の内容をしっかりと把握し、体調の変化が見られたときは速やかに主治医に報告し、指示をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を分担してお願いしています。生活歴や残存能力を活かした役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて職員と共に買物に出かけています。	「歩行ができる」「立位が保てる」ことを基軸とし、全介助となれば併設の特別養護老人ホームへ転居となる仕組みのためか、壮健ではつらつとした利用者です。広い中庭や三島神社への散歩で健脚を養い、ロイヤルホテル、ガーデンパークなどへも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っています。今後自己管理ができる方がいれば、買い物の際に見守りで支払いができるよう支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙が出せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、誰もが居心地の良い環境づくりに努め、生活感や季節感が感じられる工夫をしています。	大きな窓からの自然採光に包まれ、花壇に目が和み、緑の空気を含んだ風が心地よい空間です。壁に連なる思い出写真では話材が拡がり、大型ソファにゆったりと寛いだり、中庭への出入りがスムーズにでき、思い思いの時間を過ごすことが出来ています。	網や箱が無造作に置かれた箱庭の5Sについて見直すことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにおいて、ゆったりと過ごすことができるようソファを置いて大勢の方がくつろげる空間を用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を入居前に過ごしていた部屋とできるだけ近づけるよう配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	目覚まし時計やテレビ、カレンダー、好きな歌手のポスターからはこれまでの暮らしが続いていることが見え、また皆で作ったクラフト作品や人形やぬいぐるみを飾り、その人らしさが滲む居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれトイレと洗面所が設置されており、安全にかつ個々のプライバシーが守られるよう工夫しています。		